

## 将来像の共通認識による実現性の向上

### 1. 基本構想策定の必要性

構想策定は、業務改革やDX推進、システム刷新等のプロジェクトを進めるなかで、プロジェクトの方向性を定めるために最初に実施する工程です。構想策定を実施することでプロジェクトの方向性を可視化し、プロジェクト達成後の実現イメージに齟齬がないことが期待されます。また、プロジェクトに関わるステークホルダーが共通意識を持つことができます。

#### 基本構想策定の概要

構想策定はグランドデザインとも称されており、国でも政策の全体構想や長期的な国家戦略を策定しています。

#### 国の主な全体構想

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」  
(令和7年6月閣議決定)

「GX2040ビジョン 脱炭素成長型経済構造  
移行推進戦略 改訂」  
(令和7年2月改訂)

「こども未来戦略～次元の異なる少子化対  
策の実現に向けて～」  
(令和5年12月閣議決定)

### 2. 基本構想策定における課題

構想策定は、プロジェクトの指針を決める上で重要な工程ですが、一方で、策定における課題も挙げられます。実現可能性が高いゴールとなっていないか、全てのステークホルダーを巻き込んだ合意形成が図れているか等、構想策定がその後の工程で十分活用されるためには、これらの課題を解決する必要があります。

#### 実現性を加味した基本構想策定

- ・抜本的な業務改革を進めるためには、現実的な施策に落とし込み過ぎないことも重要だが、一方でスケジュール等のある程度の見通しつける必要がある

#### ステークホルダー全体での合意形成

- ・現場職員、中間層、管理層、その他ステークホルダーそれぞれの要求事項は異なるため、構想策定段階で共通認識を持ち、合意形成を図ることが重要である

#### 現場職員・組織文化に即した将来像の決定

- ・例えば既存システムを改修するプロジェクトの場合、より現場職員が使いやすく、業務に則したシステムへ改修することが求められる。組織文化を十分に理解し、現場職員が自分事としてイメージできる将来像を決定する

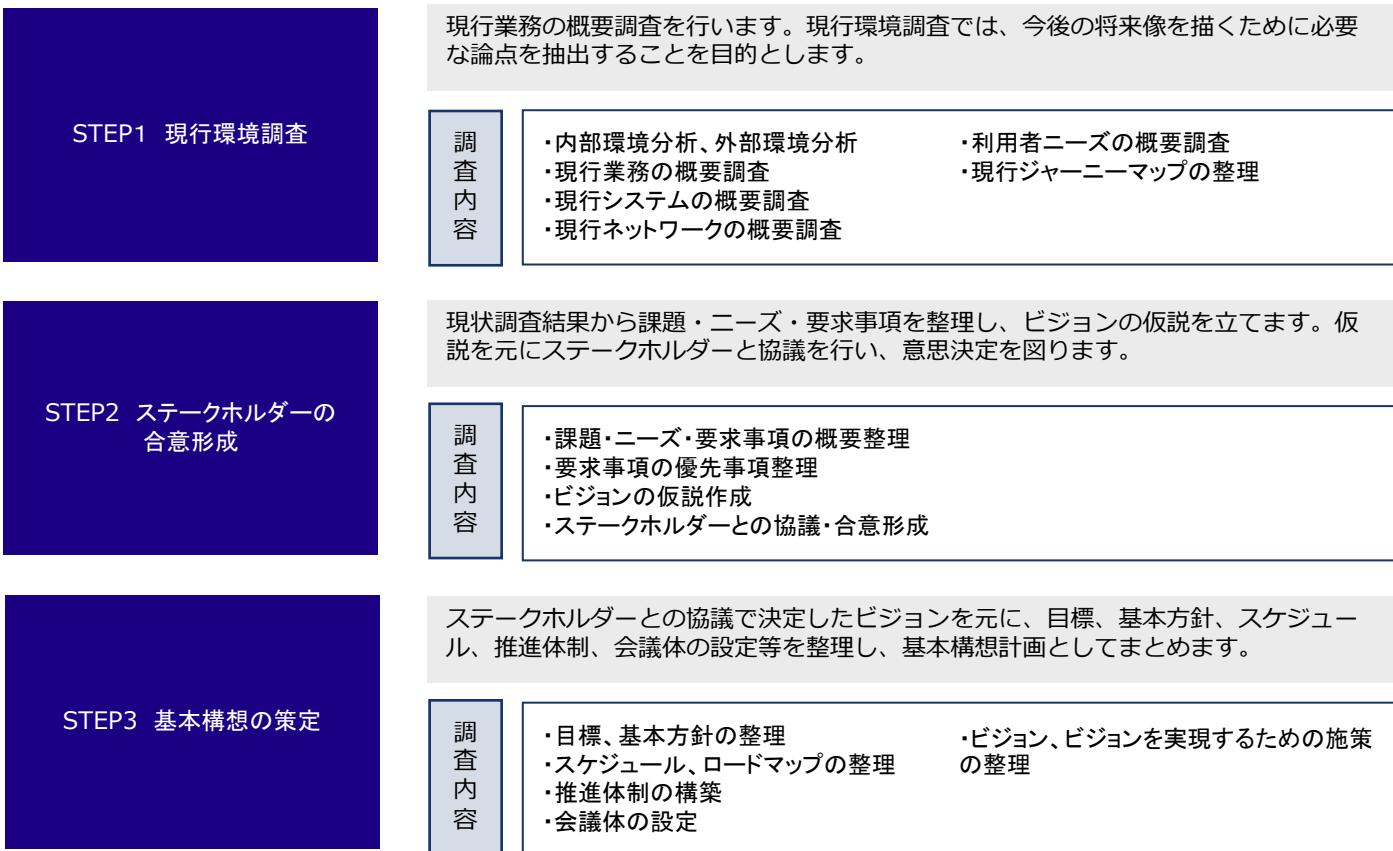
#### 基本構想の形骸化

- ・基本構想策定したとしても、構想を具体化する推進体制が確立されていない場合、基本構想が形骸化する恐れがある。推進体制、スケジュール、会議体等の設定を着実に実施する

#### 4. 基本構想策定コンサルティングの概要

本コンサルティングサービスでは、現行概要調査を元にビジョンの仮説を立て、各ステークホルダーを巻き込んだ協議と合意形成を行い、後工程の実現性の高い基本構想を策定します。

##### サービス一連の流れ



#### 5. 本サービスの特徴

##### 構想策定の軸となる課題・解決の方向性に関する仮説の設定

実現性の高い構想を策定するためには、現状調査結果から構想策定の軸となるビジョンの仮説を抽出することが重要です。弊社が培ってきた多くの業務改革、BPRに関するコンサルティングの実績を活かして、本質的な課題の抽出と解決の方向性の決定を支援します。

##### ステークホルダーとのワークショップ・合意形成

構想を効率的に策定するためには、ステークホルダーと密に連携し、対話を重ねて共通認識を醸成していくプロセスが不可欠です。現状調査結果を元に策定したビジョンの仮説を元に、合意形成を図るためのワークショップを実施します。

#### 6. 類似プロジェクトの実績

本コンサルティングサービスに類似するプロジェクトについて、直近5年間のコンサルティング実績の一部を示します。

##### お問い合わせ先

###### 富士通株式会社

パブリック事業本部 パブリックコンサルティング事業部

担当：西山 (nishiyama\_naoki@fujitsu.com)

〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー